

住宅と窓 その6

Vol. 8

P

第8号のポイント

1. スウェーデン北部産パインを使った木製窓はレベルが高い。
2. 防腐処理は加圧注入すると腐りにくく長持ちする。
3. 外側をアルミで被覆すれば耐用年数は50年以上。

?

筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)
1975年 群馬県生まれ
日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。
スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。
河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。
スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
筆者ホームページ:
<http://mala-gruppen.com>



木目が詰まった北部産パインと工場塗装仕上げ、そして外側アルミ被覆の木製窓

Hejsan! 今回は木製窓の耐久性についてお話しします。木製窓というと、自然素材のため狂いがひどくすぐに腐ってしまい、燃えやすい・・・といったイメージが日本ですが、これは恐らく、木製窓の文化が戦前のまま止まっているからでしょう。世界でも先端を行くスウェーデンの木製窓を見るとその進化に驚かされます。スウェーデン人は今でもなお木製窓の可能性を追求し続けているのです。

ここでは、私が実際にスウェーデンの窓職人から聞いたお話をご紹介します。

「まず、窓本体の性能を決めているのは、枠材に使われているパイン(赤松)である。どこ産かを聞けばその窓のレベルがわかる。スウェーデンパインでも北部産をわざわざ使っているメーカーは信頼できる。続いて枠材の処理方法だ。外側を木で使うのであれば、防腐処理を表面に塗っているか、それとも、加圧注入で中まで浸透させているか確認しなさい。仕上げ塗装は、現場でなく工場塗装を勧める。工場では、静電塗装といった特別な処理をしているため、仕上がりが全く違うからだ。」

続けてこう教えてくれました。「こうして作った木製窓の耐用年数は30年以上にもなる。木製窓がどこから弱ってくるか知っているか?それは窓の外側からだ。日射と雨風に直接さらされるため、やはり外側は塗装をまめに繰り返す必要がある。だから外側アルミ被覆といった木製窓が開発されたのだ。これなら耐用年数は50年以上にもなり、防火性も上がるからね。木製窓もいろいろあるからよく見極めなさい。」

本当にありがたい教えてでした。次回は、木製窓の防音性についてです。お楽しみに!

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: info@mala-gruppen.com)

Innovation : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、
全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。